

令和5年度 学校評価報告書

小樽市立北陵中学校
校長 岡本 清豪

1 本年度の重点目標

「15の春をみんなで考えよう」～小中一貫教育の継承と進化～
本校が抱える課題は「学力」と「生徒指導（不登校）」です。この課題の解決には、これまで取り組んできた小中一貫の取組みを継承し、学校・地域・保護者が共に義務教育9年間の接続を意識していくこと。更に、中学校卒業の段階として身に着けるべきスキルを明確にし、予測不可能な時代を生き抜くことのできる「自立した生徒」の育成が何よりも大切な学校経営の重点となります。

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進 計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校 関係者 評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力 の育成	確かな学力 の育成	国語・数学が「好き」、「どちらかと言え ば好き」と回答した生徒の割合を国語 は65%、数学を60%以上にする。	B	国語は49.8% 数学は56.6%であり、目標達成と はならなかった。数学ではタブレットの活用（まとめ や図形等）を実践してから生徒の理解度が深まって きているので、今後も継続したい。	◎
	特別支援教育 の充実	特別支援教育専門研修を受講した特 別支援担当教員の割合を90%以上に する。	A	特別支援担当教員全員が、専門研修を受講するこ とが出来た。今後も特別支援教員だけではなく、全 教職員で共通理解のもと対応にあたる。	◎
	国際理解教育 の充実	イングリッシュキャンプなど小樽市等の 各種事業への参加人数を5人以上に する。	A	参加者は6名（イングリッシュキャンプ3、英検対策 講座2、ユネスコ英語祭1）。また、本校独自でALT との日常的な交流を深める機会としてイングリッ シュクラブを創設し7名の生徒が参加している。	◎
	理数教育 の充実	全国学力・学習状況調査の質問紙等 で「数学の勉強が好き」と肯定的に回 答した生徒の割合を60%以上にする。	C	全国学力・学習状況調査と生徒アンケート等で肯 定的な回答が45.3%であった。目標には届かなか ったが、端末を活用した生徒の興味関心を引く 問題・課題の設定等、授業改善を進めた。	◎
	情報教育 の充実	タブレットや大型液晶テレビ、実物投 影機のICT機器を効果的な場面で活 用した授業を、全教科で実施する。	A	全教科で日常的にICTを活用した授業を行っている。 また、全員タブレットを活用した授業公開を行 い、授業改善に努めている。	◎
	キャリア教育 の充実	全国学力・学習状況調査の生徒質問 紙などにおいて「将来の夢や目標を 持っている」と回答した割合を75%以 上にする。	B	全国学力調査（4月）では60%に留まったが、12月 末の本校調査では64%にまで増加した。総合学習 「小樽未来学」では、自分たちで考え解決し、発信 する力をつけることができたので継続したい。	◎
改善方策		授業改善を小中で連携して進めていく。（全国学力・学習状況調査と標準学力検査の結果分析、重点指導単元の共有〔単元 配列表の作成・活用〕、タブレット端末のより効果的な活用、児童生徒が興味関心を持つ工夫した問題・課題の設定と授業づ くり、授業公開・交流など）			
学校関係者評価 委員による意見		国語より数学好きの子が多いのは、達成度別授業や北陵学習室の成果である。特に、理数系は一つ躓く「分からなくてやらない 」となりがちなので、小中で連携した授業改善に力を尽くしていただきたい。タブレット端末を活用した授業など生徒が興 味・関心を持って学ぶだけでなく、国語の読解力をもっと身につけてほしい。各達成度は異なっているが、それに取り組み続 ける学校の姿勢を評価する。将来、小さな夢であっても「活躍する自分」を思い描いて、学習に向かってほしい。			
2 豊かな心 の育成	道徳教育 の充実	「決まりを守っている」の項目に肯定的 に回答した生徒の割合を95%以上にす る。	B	生徒アンケートでは、92.1%であった。数値以上に なぜ決まりを守る必要があるのかということを、生徒 に納得感を感じさせながら、指導を続けていく必要 がある。	◎
	ふるさと教育 の充実	12スキルアンケートにおいて「S7地域 に貢献することができる」と回答した生 徒を70%以上にする。	A	生徒アンケートから、肯定的な回答が72.1%であ った。今年度実施した、清掃ボランティアや小樽未来 学発表会などの取組から、達成感を感じている生 徒が多い。	◎
	読書活動 の推進	図書委員会と連携し、本の貸し出し冊 数の平均を年間5冊以上にする。	A	生徒1人当たりの年平均貸出冊数が6.3冊であ った。1年間を通しての朝読書の取組や、図書委員 会や国語科との連携などによって本に興味を持た せることが出来た。	◎
	体験活動 の推進	雪かき/清掃ボランティアの参加を促 し、全国学力調査などで「今住んでい る地域の行事に参加していますか」の 肯定的回答を50%以上にする。	B	全国調査（4月）では25.7%だった。今年度は新た に全校で地域のゴミ拾い活動（各町内会と連携）に 取り組んだ。また、ユニクロ「服のチカラプロジェクト」、スポーツ雪かきボランティアを継続実施した。	◎
	コミュニケーション能力の育成	「話し合い活動を通して、考えを深め たり、広げたりできていると思う」の項目 に肯定的回答をした生徒の割合を 75%以上にする。	A	生徒アンケートより肯定的な回答が78.9%であ った。今年度の研究テーマの対話的な活動の工夫 や、異学年交流を行ったことで、生徒同士の話し 合いに前向きな意見が増えた。	◎
	いじめの防止や 不登校児童生 徒の支援の充実	全国学力・学習状況調査の生徒質問 紙において「いじめはどんな理由が あってもいけないことだと思う」と回答 する割合を75%以上にする。	A	全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において 「いじめはどんな理由があってもいけないことか と思う」と回答する割合が95.7%と数値目標を上回 った。	◎
改善方策		小学校や関係機関、保護者・地域と連携し、規範や地域貢献への意識を一層向上させる。（道徳教育の充実、縦割りによる 人権教室の実施や児童会・生徒会の交流〔いじめ防止〕、外部講師による各種教室の実施〔情報モラル教室・命の大切さ を実感させる教室等〕、全校ボランティア清掃活動の実施、PTAによるネット・スマホルールづくり、雪かきボランティアへの参加 など）			
学校関係者評価 委員による意見		ただ単に「決まりを守る」という問い方では漠然すぎて本質が見えてこない。「なぜ決まりを守る必要があるのか」そこから指導 していかなければいけないのかと驚きですが、道徳教育は中学生が非常に大切な時期、ご家庭の協力も不可欠である。全校 でのボランティア清掃活動は、一生懸命にゴミを拾う姿がとても良く、地域貢献への意識が向上してきた。ふるさとに誇りを持 ち、いつかこの町から、全国に、世界に発信できる青年になってほしい。生徒の成長を地域がしっかりサポートしたい。			

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	全国体力・運動能力調査で「体育の授業以外で1週間に運動やスポーツの総運動時間が60分以上」と回答する割合を男女とも80%以上にする。	B	男子94.1%、女子71.9%の回答結果となった。女子の1週間の総運動時間は0分が25%であり、運動習慣の改善が特に必要。体育科の授業や掲示物等(体力向上コーナー)で更に改善を検討する。	○
		食育の推進	外部機関と連携した食育指導(出前教室)の実施を100%にする。	A	外部講師(明治)の活用による薬物乱用防止教室は実施済である。(11月・1学年)	◎
		健康教育の充実	外部講師の活用による薬物乱用防止教室の実施を100%にする。	A	外部講師(小樽警察署)の活用による薬物乱用防止教室は実施済である。(11月・2学年)	◎
改善方針		運動習慣については、「体力向上改善プラン」の見直しや「スケジュール手帳」の有効活用、「体育科と保体専門委員会の連携(生徒の主体的な取組)」などを行い改善を図る。				
学校関係者評価委員による意見		女子の運動習慣の改善など中学生の健やかな体の育成は、家庭との連携が必要不可欠。(既にやっているとは思いますが)特に、女子は重い腰が中々上がらない。楽しく遊び感覚で動ける事が良い。一方、時間をかければ良いというものではなく、その中身が充実したものになっているかが本来の目標とすべき。スマホの普及で低年令でも簡単に薬物などの情報に触れることが出来るようになってきていると聞く。正しい知識が得られるよう、全員が受講できる機会の提供をこれからもお願いしたい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	12月生徒アンケートにおいて「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答の割合を60%以上(R4の1・2年生56%)にする。	B	12月生徒アンケート結果において54.3%となり、目標に対し9割の達成率であった。B評価であるが、スケジュール手帳の有効活用について指導を継続している。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	樟っ子学校サポート事業と連携した長期休業中北陵学習室の参加人数(延べ)を夏期、冬期合わせて100人以上にする。	A	長期休業中に北陵学習室に参加した生徒は、夏季142名 冬季70名 合計212名であった。昨年より参加者が増え目標も達成できた。	◎
改善方針		研究部が中心となり、家庭学習の習慣が身に付くよう改善を図る。(スケジュール手帳の内容改善と活用指導、週末課題の取組、学習方法の指導など)				
学校関係者評価委員による意見		スケジュール手帳はとても良い取組。現在9割の達成率ですが、高校受験にも繋がる為に、来年度は、達成率100%になるように、改善をして欲しいと思います。先生方のご努力、ご協力に頭が下がる。家庭も学校に任せきりにしないでほしい。北陵学習室の参加合計200名超は本当にすごい。うちの子は、学習塾に行っていないので、北陵学習室を利用して勉強をするようになった。ここで学ぶことの楽しさを知った生徒達が家庭でも自学自習できる、そんな好循環が生まれるとよいなど期待する。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	北陵中学校校区で、算数数学科において相互乗り入れTT指導を年間105コマ以上実施する。	A	小学校教員による中1数学のTT指導を週1コマ、中学校教員による小6算数のTT指導を週3コマを通年実施し、105コマ以上の実施を達成した。	◎
		教育環境の整備・充実	校内研修で効果的な活用についての実践交流などを年3回以上実施し、教職員の端末活用スキルの向上を目指す。	A	校内研修において我々自身がタブレットを活用して意見交流したり、授業での実践交流をしたりした。職員室内で使用法などについて情報交換を行うなど、年3回以上実施した。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教職員一人一人のライフステージに相応しい研修会への参加を促し、1人2講座以上の参加を目指す。	A	経験年数や専門性等に応じた資質能力を自ら高めるための主体的な研修を促し、1人2講座以上の研修への参加を達成した。	◎
		学校運営の改善	教職員の「働き方改革」を視野に入れ、定期的な部活動休養日を月3回及び定時退勤日を月2回以上設定する。	A	主幹教諭・教務主任が連携して年間を見通した教育課程編成時に部活動休養日を月3回、定時退勤日月2回以上設定し、実施することができた。	◎
		学校安全教育の充実	関係機関と連携した防災教室の実施や通学安全マップを活用した安全指導の実施を100%にする。	A	小樽市総務部災害対策室との連携による防災教室を1月19日に実施。冬季の防災や市内・校区内で予想される災害(安全マップ活用)、避難所運営などについて学んだ。	◎
改善方針		全ての項目において数値目標を達成し、教育環境の充実や働き方改革を推進した上での教員の指導力向上・授業改善に結びついたといえる。取組の継続や改善を検討し、次年度の目標を設定したい。				
学校関係者評価委員による意見		私達の時代と大きく異なる中学校生活に対応する先生方の「働き方改革」をまず願う。一般社会においても「余裕」のない生活に「活力」は生まれない。働き方改革をしながら目標を達成した事に教職員の努力がとてもあったと推察する。先生方のスキルアップはとても頼もしく思う。部活の時間のこともあり大変だが、タブレット活用のスキル向上や各研修の参加、今後もどんどん取り入れてほしい。先生達のスキルアップは子ども達のスキルアップにつながる事間違いなし。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)			文化庁による「文化芸術による子どもの育成事業」に参加し、実演芸術の巡回公演を行う。	A	巡回公演については不採択となり芸術家の派遣事業が採択となったため、オーケストラ公演は実施せず、箏曲体験授業の実施をもって実演芸術の代替とした。	◎
改善方針		文化庁事業は不採択となる可能性があるため、令和6年度においても、「学校巡回公演(オーケストラ)」と「芸術家の派遣(箏曲体験授業)」の2本の事業に応募する。(12月に応募完了)				
学校関係者評価委員による意見		一流の芸術に触れる機会や日本の伝統芸能を学ぶ機会はとても大切である。是非とも継続してほしい。普段聞かない音楽・芸術等を、学校で体験できることは、とても素晴らしい。この経験から、新たに興味が広がって、子ども達の可能性がまた広がると思う。				